高岡の伝統芸術が、雅び、華やぐ、厳かに繰り広げられる1日。

高岡御車山は天正16年（1588年）豊臣秀吉が、後陽成天皇を聚楽第に迎え奉る時に使用したもので、加賀前田家初代当主前田利家が秀吉より拝領し、二代当主前田利長が慶長14年（1609年）に高岡城を築くに当り町民に与えられたのが始まりと伝えられています。
京都祇園の祭礼にならって鉾山に改造され、高岡關野神社の祭礼日に神輿と共に曳廻されてより以来、今日に至るまで高岡の発展と共に継承されてきました。
御車山は御所車形式に鉾を立てた特殊なもので、高岡町民の心意気と財力に支えられ、格式を保ち、高岡の金工、漆工等の優れた工芸技術の装飾が車輪や高欄、長押等に施された、日本でも屈指の華やかな山車です。

高岡御車山勢揃式のご案内

●5月1日（木）正午
片原町交差点にて（北陸銀行高岡支店角）

〈雨天時の展示場所〉 ※雨天により山車の巡行が中止となった場合は、山車の展示を行います。

高岡市山町筋観光駐車場
高岡御車山会館
NTT西日本高岡市外ビル駐車場

✽御車山の源流

御車山の中央にそびえる心柱とその先端の鉾留は神が降臨するための目印であり、花傘は祭壇に飾られた花々、そして人形は心柱を伝って降りる神の形代といわれています。古代の日本人は臨時の祭壇（築山）に神を迎えて一年の豊作を祈願しました。
毎年4月23日、二上射水神社で行われる築山行事に、この古代信仰の形態を見ることができます。
御車山は、この築山に車輪をつけて移動できるようにしたものであり、築山行事から発展したものと考えられています。

✽5月1日

祭の当日、早朝より各山町で美しく飾り立てられた7基の御車山は修祓（お祓いの神事）を行い、町内を曳廻した後、勢揃いします。山車の巡行は、古式に従い、一定の順路を奉曳されます。
各山車ごとに鈴棒を持った人を先頭に、前後左右を一文字笠をかぶり、麻裃に身を固めた山役員が伴い、また飾り山には山町ゆかりの子どもたちが裃姿で乗り、雅やかな囃子や車輪のきしむ音をたてながら、ゆっくり巡行されます。1基の山車には総勢約50名の人が付き従っています。

ユネスコ無形文化遺産登録

「山・鉾・屋台行事」33件のうちのひとつです。

エチオピア・アディスアベバにて開催されたユネスコ無形文化遺産保護条約第11回政府間委員会において、平成28年12月1日（現地時間11月30日）、高岡御車山祭を含む33件の「山・鉾・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産への登録が決定されました。
「山・鉾・屋台行事」は、地域社会の安泰、災厄防除を願い、地域の人々が一体となり執り行う山・鉾・屋台の巡行を中心とした祭礼行事です。
富山県からは「高岡御車山祭の御車山行事」（高岡市）、「魚津のタテモン行事」（魚津市）、「城端神明宮祭の曳山行事」（南砺市）の3件が選ばれています。

高岡御車山は、重要有形・無形民俗文化財、両方の指定を受ける国内5件のうちの1つです。
◆日立風流物 ◆秩父祭 ◆高岡御車山祭◆高山祭 ◆京都祇園祭

坂下町

5月1日の奉曳（巡行）では、露払いとして「源太夫獅子」で御車山を先導する町。

通町

●鉾 留…鳥兜
●本 座…布袋和尚
●幔 幕…白羅紗地剣梅鉄紋本金糸刺繍
●囃 子…越天楽・青海波

高岡漆器の代表作と言われる後屏（本座背面部）や、"からくり"によってでんぐり返しを行う唐子人形が特徴です。

御馬出町

●鉾 留…胡籙に弓矢
●本 座…佐野源左衛門
●幔 幕…仙境図綴錦織
●囃 子…慶雲楽

幔幕には、藍地に三獣（象・唐獅子・虎）と唐子達が遊ぶ情景が表現されており、幔幕の中では最上品といわれています。

守山町

●鉾 留…五鈷鈴
●本 座…恵比須
●幔 幕…緋羅紗地葡萄唐草綴織波濤模様絹糸刺繍一部金糸隈取
●囃 子…振舞

高欄に飾られた龍や鳳凰などの金具、極彩色の波濤と燕が飛び交う様が見どころです。

木舟町

●鉾 留…胡蝶
●本 座…大黒天
●幔 幕…朱地綴織宝珠模様刺繍
●囃 子…胡蝶

高岡漆器の名工 辻 丹甫の作といわれる高欄、人形をはじめ、部材や工芸品に目を見張ります。

小馬出町

●鉾 留…太鼓に鶏
●本 座…猩々
●幔 幕…春秋舞楽図綴織
●囃 子…迦陵頻

高欄や幕押の金具は高岡彫金の祖安川乾清の作であり、彫金着色の技術は群を抜いています。

一番街通

●鉾 留…釣鐘
●本 座…尉と姥
●幔 幕…朱地綴織剣梅鉄紋本金糸刺繍
●囃 子…桃李花

長押には、草花を背景にした十二支の金具が取り付けられており、中でも「子」「寅」「申」は特に優れています。

二番町

●鉾 留…桐
●本 座…千枚分銅
●唐短地幕…緋羅紗地剣梅鉄紋本金糸刺繍
●囃 子…還城楽

唯一、車輪が二輪の山車。車輪に施された金工品は、御車山の中で最上品といわれています。

●国指定重要有形民俗文化財／昭和35年6月9日 ●国指定重要無形民俗文化財／昭和54年2月3日 ●富山県指定有形文化財（工芸）／昭和42年3月25日 ●ユネスコ無形文化遺産／平成28年12月1日